

一般国道4号 栃木県やいたし矢板市～なすしおぼらし那須塩原市間
地域の意見聴取（第1回）

—クロス集計結果—

平成26年10月1日 関東地方整備局

参考資料 目次

参考1. クロス集計結果【住民等】

住民等 属性（地域別）	．．． 3
住民等 属性（年齢別）	．．． 4
住民等 属性（職業別）	．．． 5
住民等 利用頻度・手段・目的（年齢別）	．．． 6
住民等 利用頻度・目的（手段別・目的別）	．．． 7
住民等 課題（地域別）	．．． 8
住民等 課題（年齢別・頻度別・手段別・目的別）	．．． 9
住民等 政策目標（地域別）	．．． 10
住民等 政策目標（年齢別・利用頻度別）	．．． 11
住民等 政策目標（手段別・目的別・課題別）	．．． 12
住民等 必要性（地域別・年齢別・利用頻度別）	．．． 13
住民等 必要性（手段別・目的別・課題別）	．．． 14

参考2. クロス集計結果【関係団体】

関係団体 利用頻度・出荷先（業態別・積載品目別）	．．． 16
関係団体 課題（業態別）	．．． 17
関係団体 政策目標（業態別）	．．． 18
関係団体 必要性（業態別・積載品目別・課題別）	．．． 19

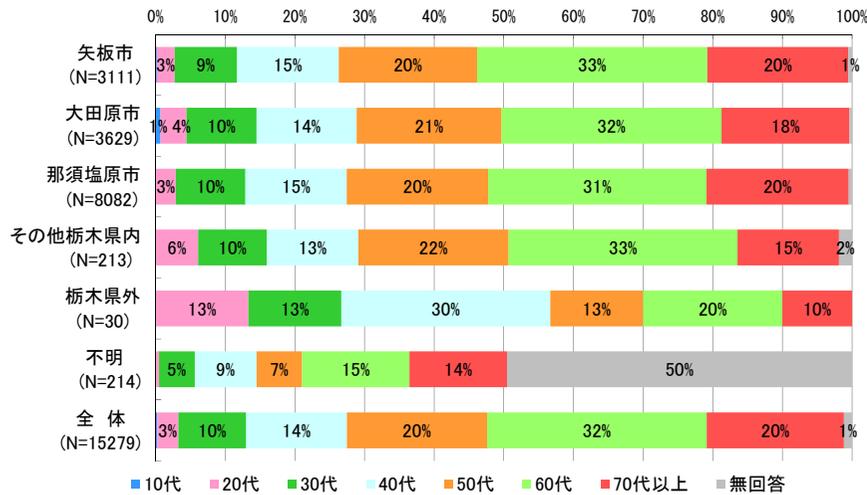
参考1. クロス集計結果【住民等】

※留置き、Webを含む

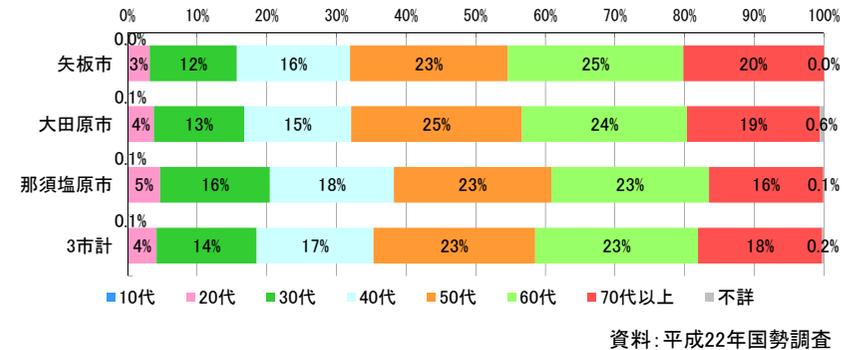
住民等 属性(地域別)

◆地域別に年齢、職業、性別に関する属性の偏りはない。

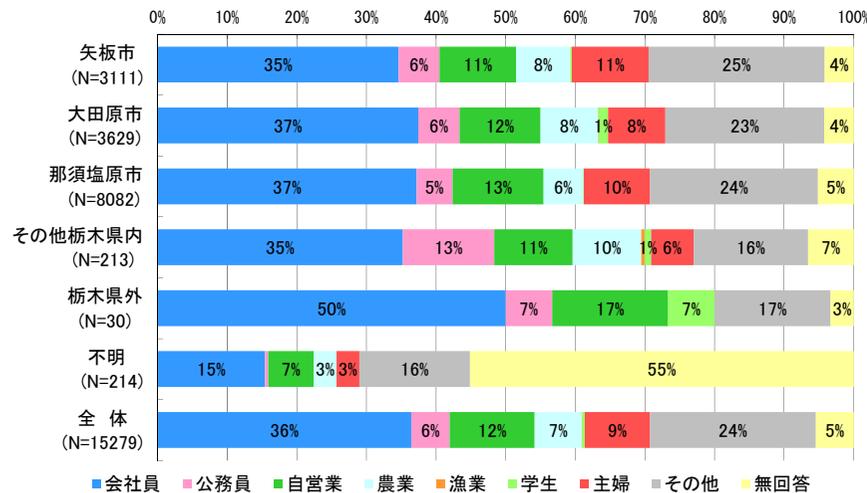
【地域別年齢】



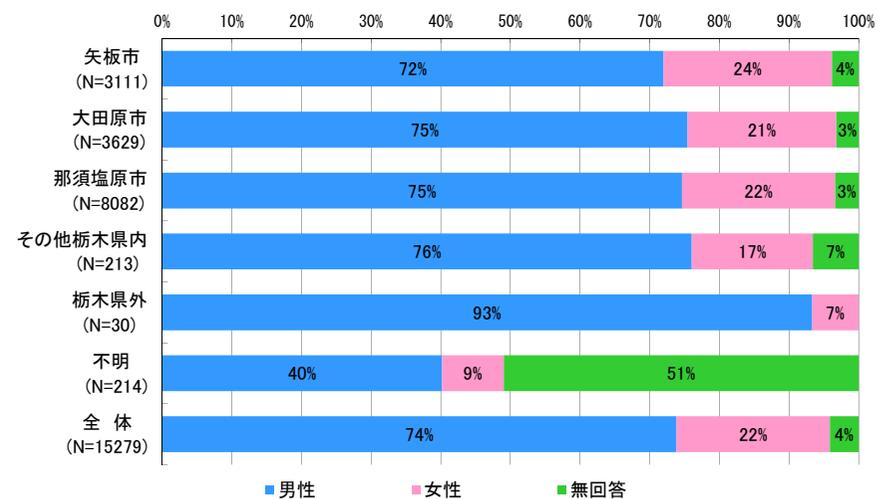
【参考：市別世帯主年齢】



【地域別職業】



【地域別性別】

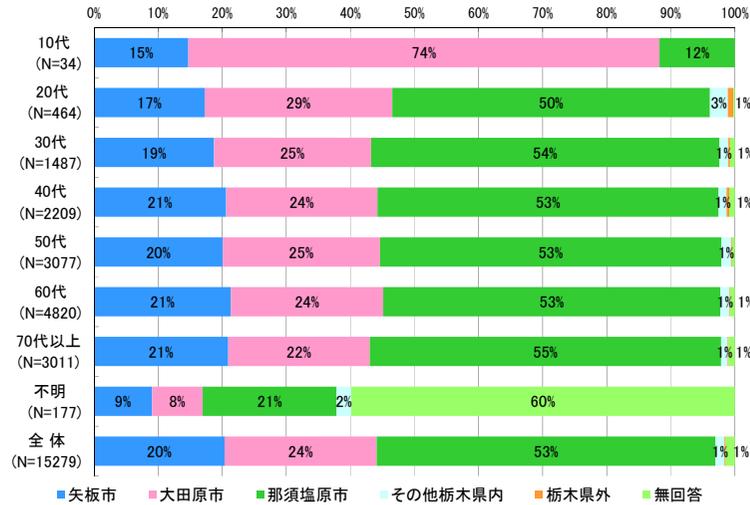


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

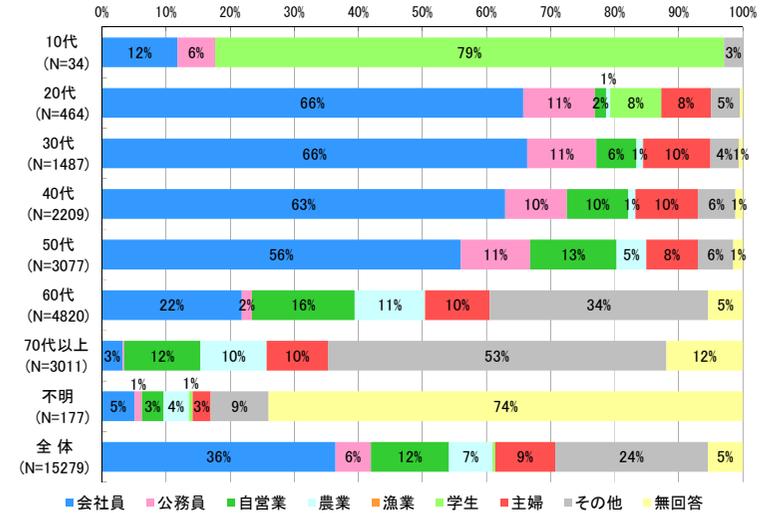
住民等 属性(年齢別)

- ◆年齢別地域では、10代が、中学校を通じて調査票を配布した大田原市が多い。
- ◆若年の回答者ほど女性の割合が高く、20代は4割が女性の回答者であった。

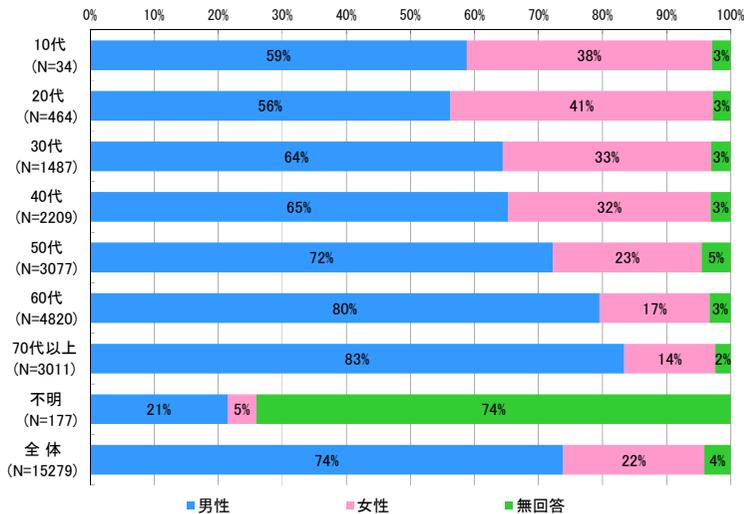
【年齢別地域】



【年齢別職業】



【年齢別性別】

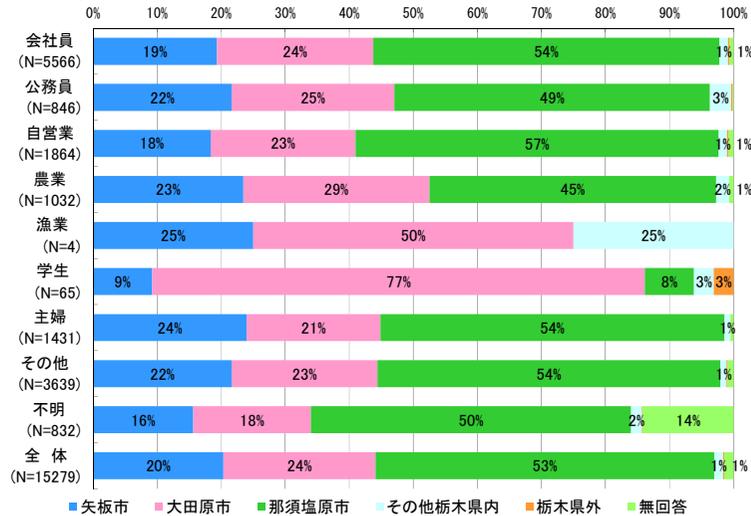


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

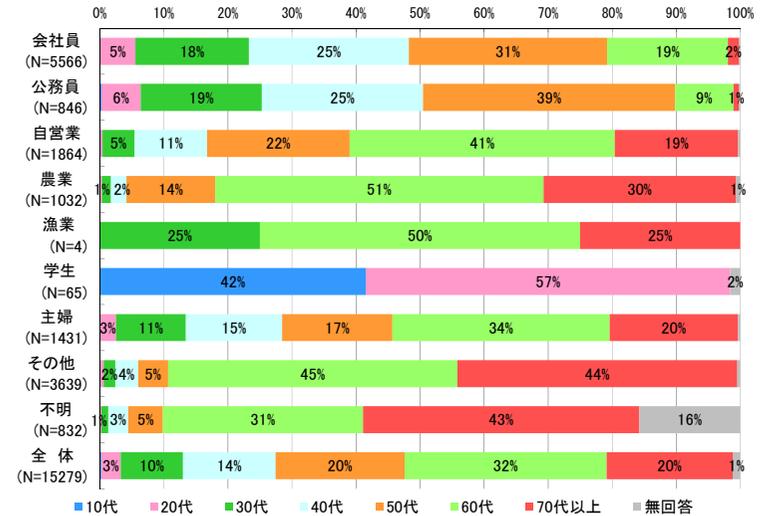
住民等 属性(職業別)

- ◆職業別地域では、農業や学生では大田原市の割合が比較的高い。
- ◆職業別年齢では、自営業、農業で50代以上の割合が比較的高い。

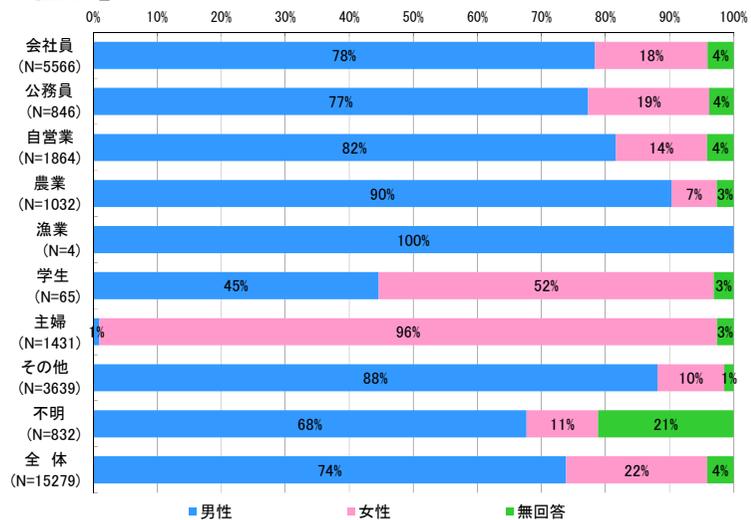
【職業別地域】



【職業別年齢】



【職業別性別】

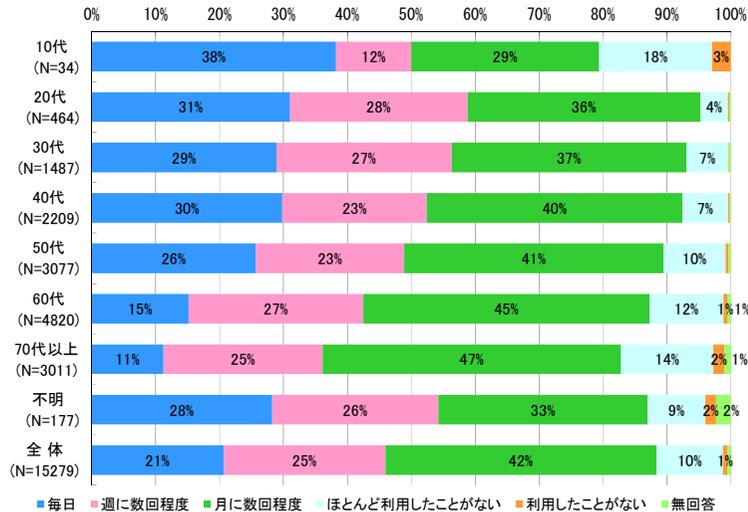


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

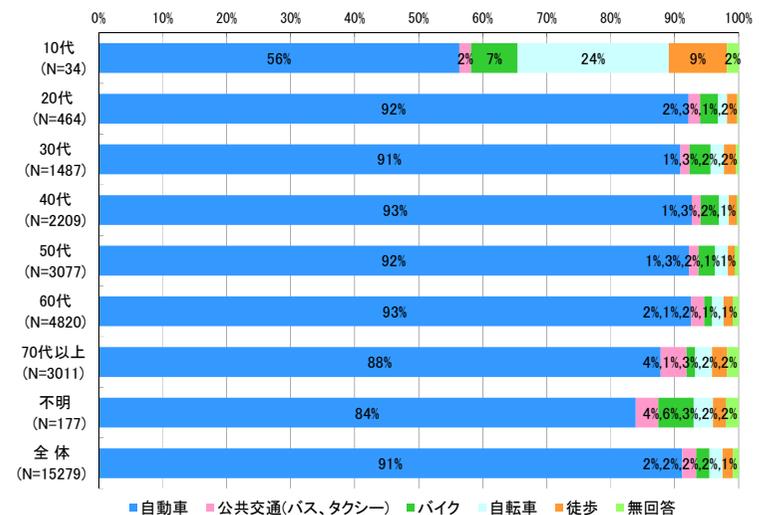
住民等 利用頻度・手段・目的(年齢別)

- ◆年齢別利用頻度では、20代～50代の生産年齢の利用頻度が比較的高い。
- ◆年齢別移動手段では、全世代で自家用車が多い。10代、70代以上では、比較的自動車以外の利用が比較的多い。
- ◆年齢別利用目的では、20代～50代の生産年齢で、通勤・通学や仕事での利用が比較的多い。

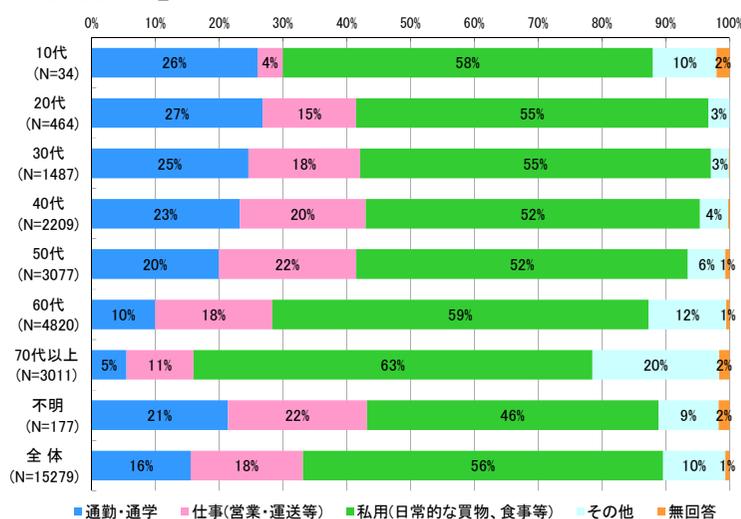
【年齢別利用頻度】



【年齢別移動手段】



【年齢別利用目的】

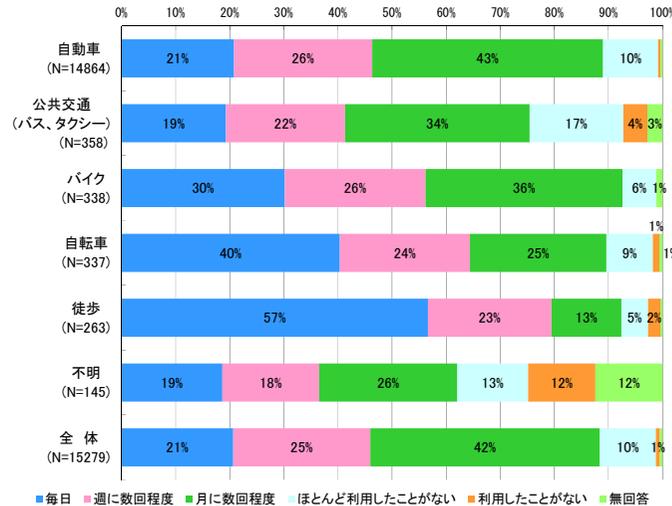


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

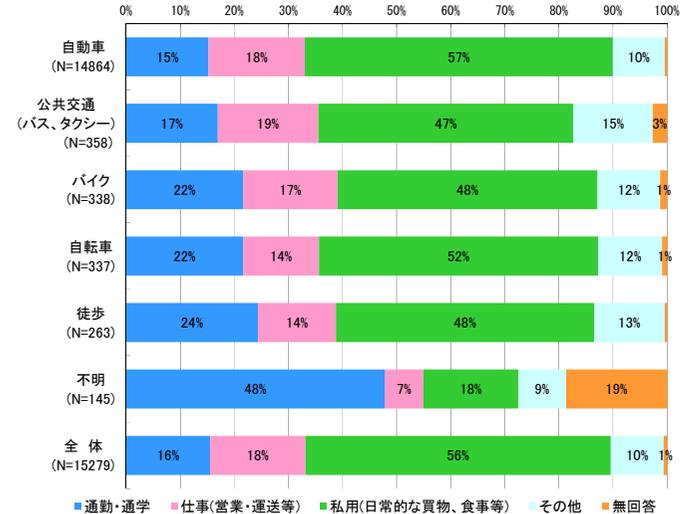
住民等 利用頻度・目的(手段別・目的別)

- ◆ 移動手段別利用頻度では、自転車・徒歩の利用頻度が比較的高い。
- ◆ 移動手段別利用目的では、交通手段の異なる利用目的の顕著な違いは見られない。
- ◆ 利用目的別利用頻度では、通勤・通学、仕事の順に、利用頻度が高い。

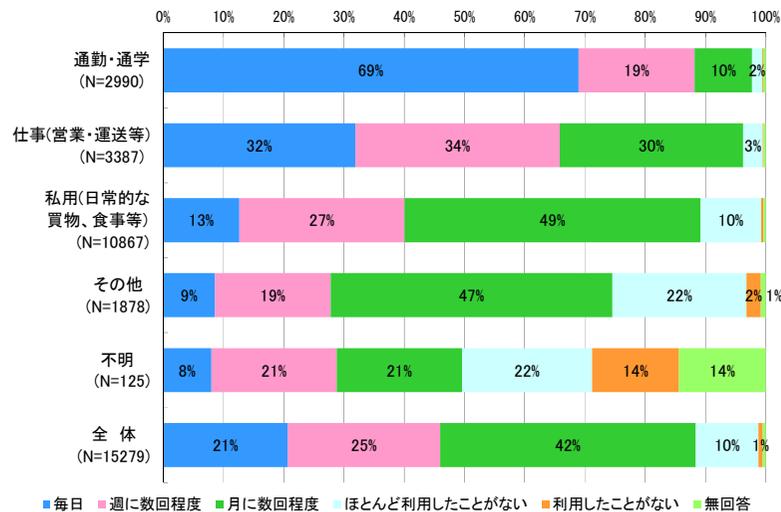
【移動手段別利用頻度】



【移動手段別利用目的】



【利用目的別利用頻度】

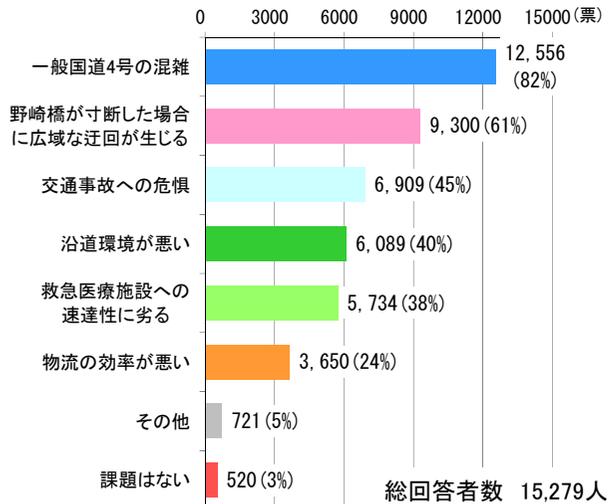


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

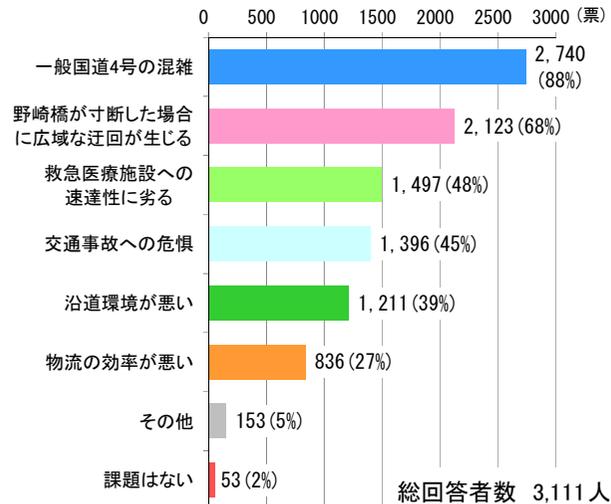
住民等 課題(地域別)

- ◆「混雑」「広域な迂回」に続き、矢板市では、3番目に「救急医療への速達性に劣る」との課題を認識している人が多い。
- ◆大田原市、那須塩原市では、3番目に「交通事故への危惧」との課題を認識している人が多い。
- ◆「沿道環境が悪い」は、その他栃木県内で3番目、栃木県外で2番目に課題認識している人が多い。

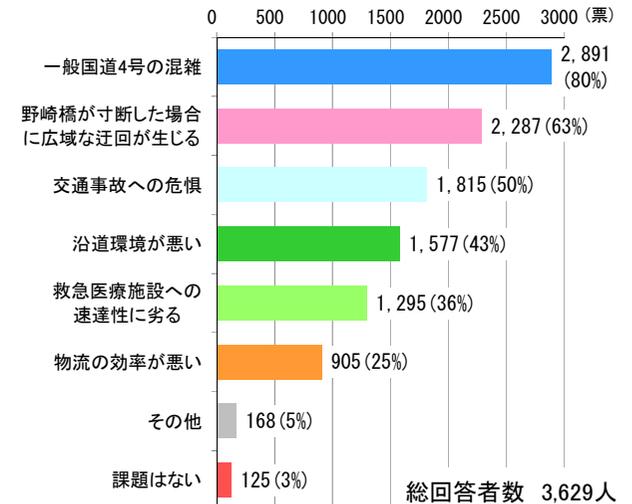
【全体】



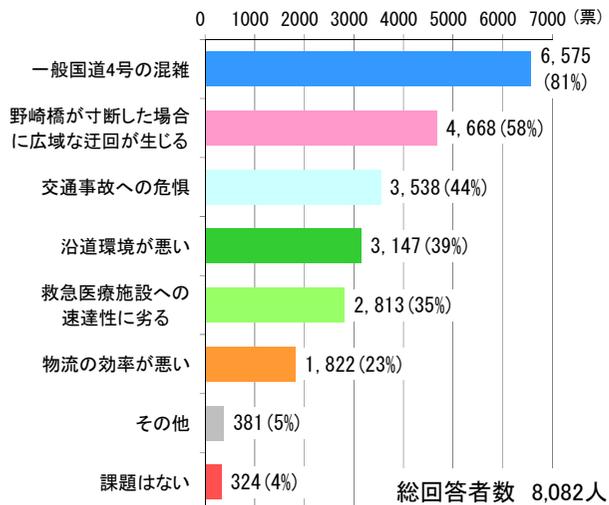
【矢板市】



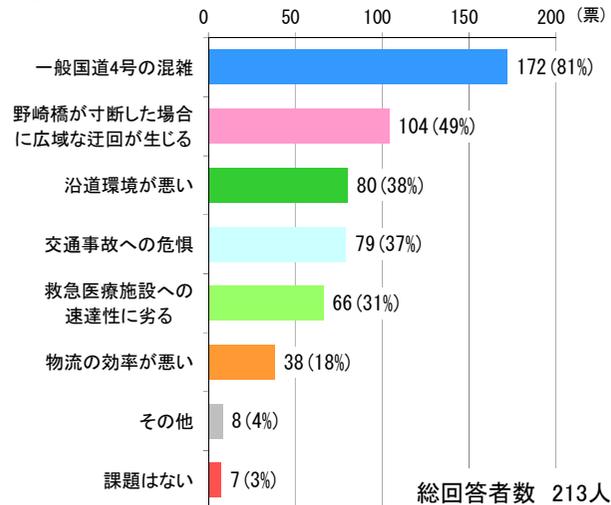
【大田原市】



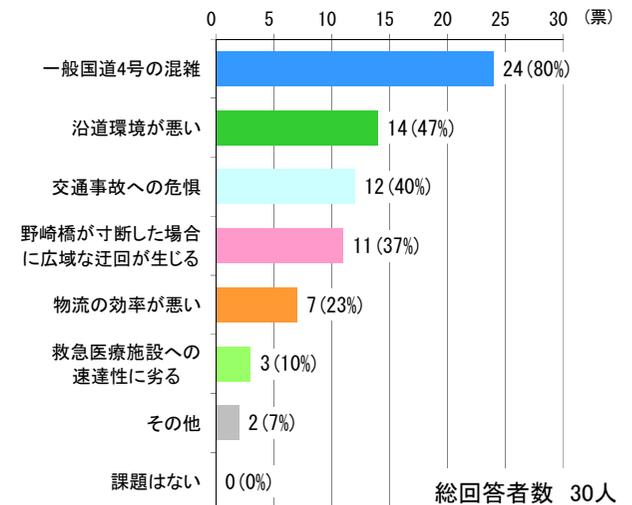
【那須塩原市】



【その他栃木県内】



【栃木県外】

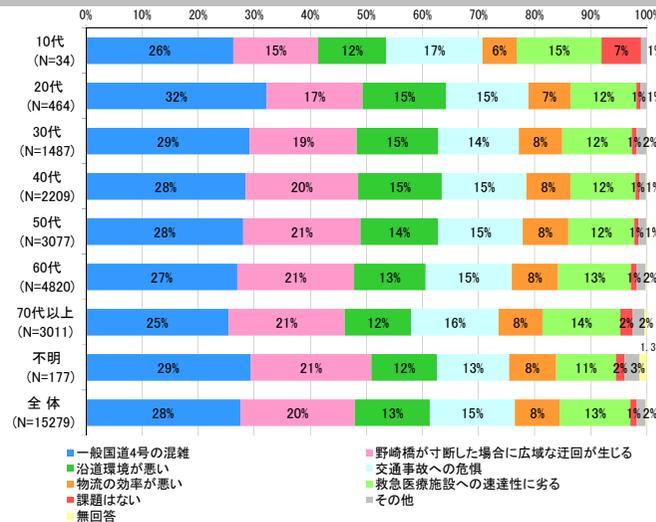


※割合は総回答者数に対する割合。

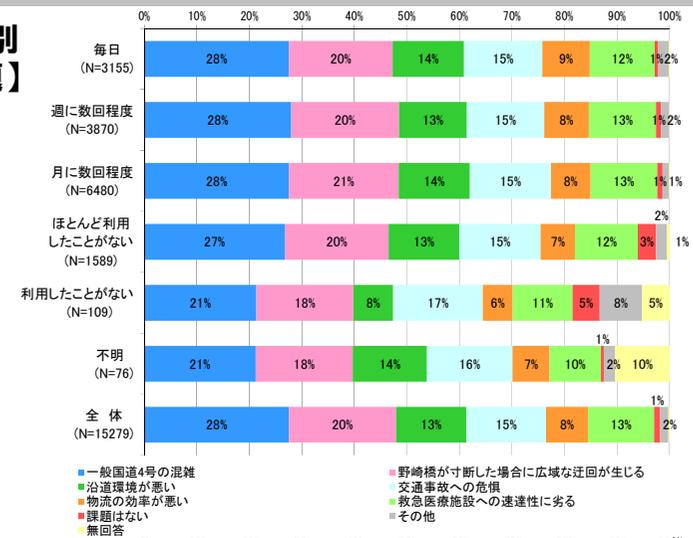
住民等 課題(年齢別・頻度別・手段別・目的別)

- ◆年齢別課題では、20代以上では、若い世代ほど「混雑」の意見の割合が高い。10代では、「交通事故への危惧」の意見が他の世代に比べ高い。「救急医療への速達性に劣る」との意見は、10代と70代以上で比較的高い。
- ◆利用頻度別課題では、利用頻度の高低(利用したことがないを除く)で、課題認識の傾向に大きな違いは見られない。「課題はない」は(ほとんど)利用したことがない回答者で比較的高い。
- ◆移動手段別課題では、自動車で「混雑」が比較的高い。バイク、自転車、徒歩で「交通事故への危惧」を挙げる割合が比較的高い。
- ◆利用目的別課題では、傾向の違いは見られない。

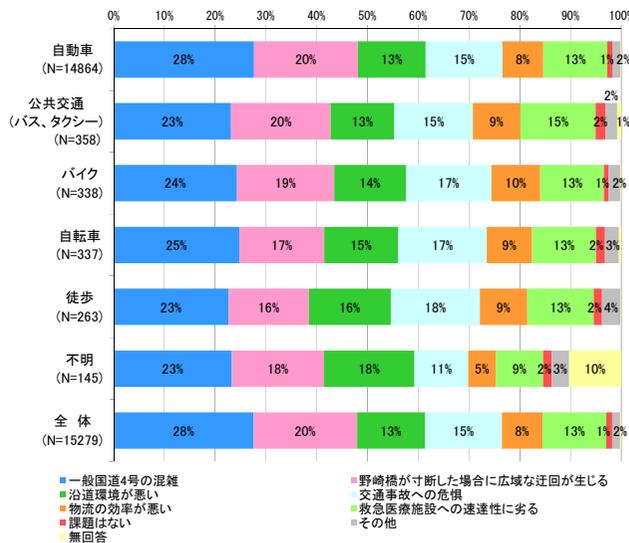
【年齢別課題】



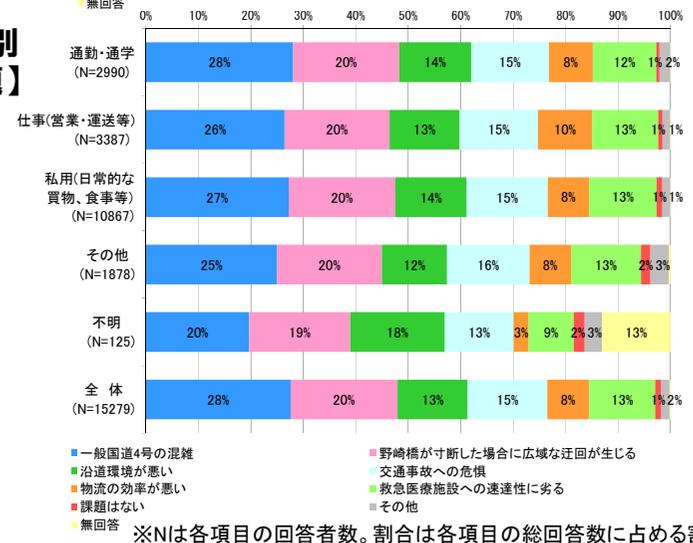
【利用頻度別課題】



【移動手段別課題】



【利用目的別課題】

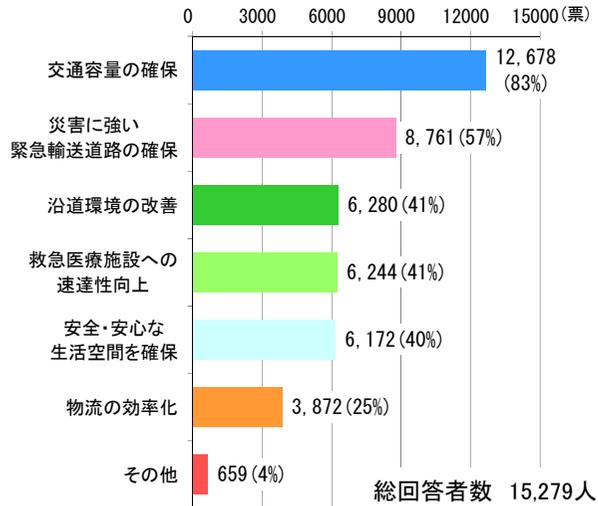


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

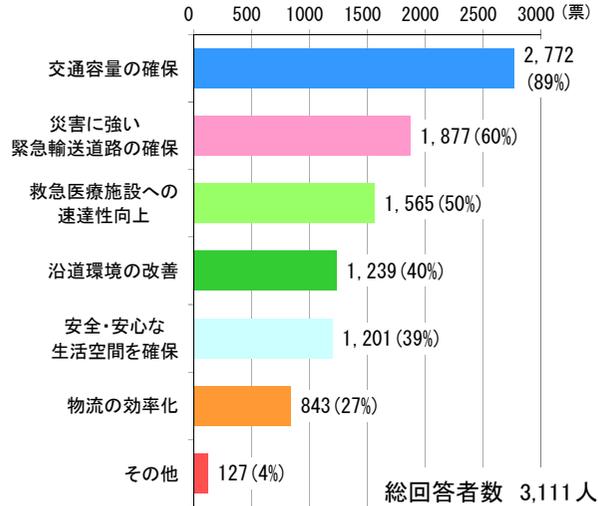
住民等 政策目標(地域別)

◆「交通容量の確保」「緊急輸送路の確保」に続き、矢板市では、3番目に「救急医療施設への速達性向上」との目標を挙げた人が多い。

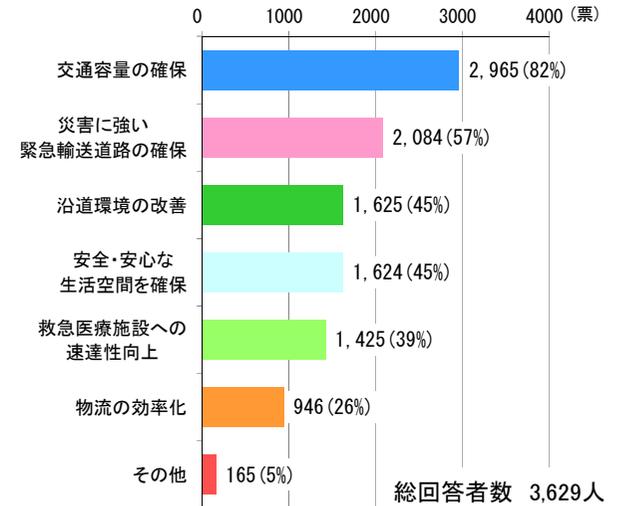
【全体】



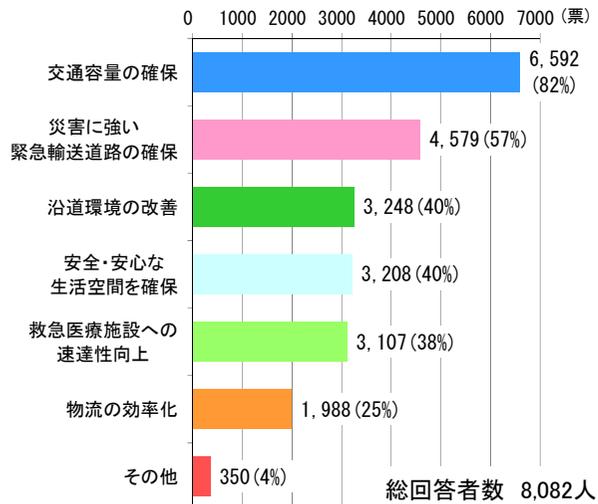
【矢板市】



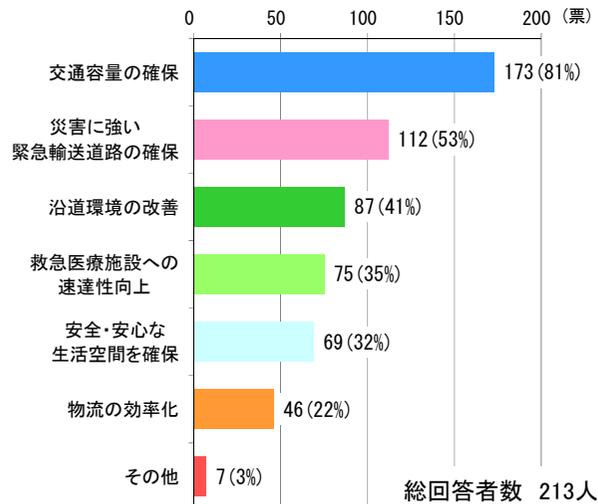
【大田原市】



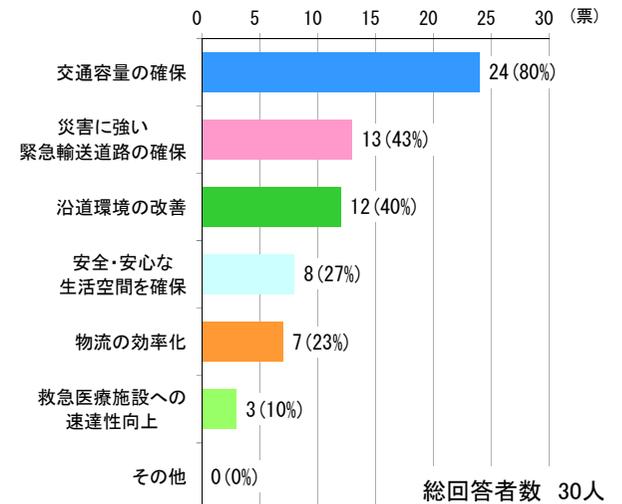
【那須塩原市】



【その他栃木県内】



【栃木県外】

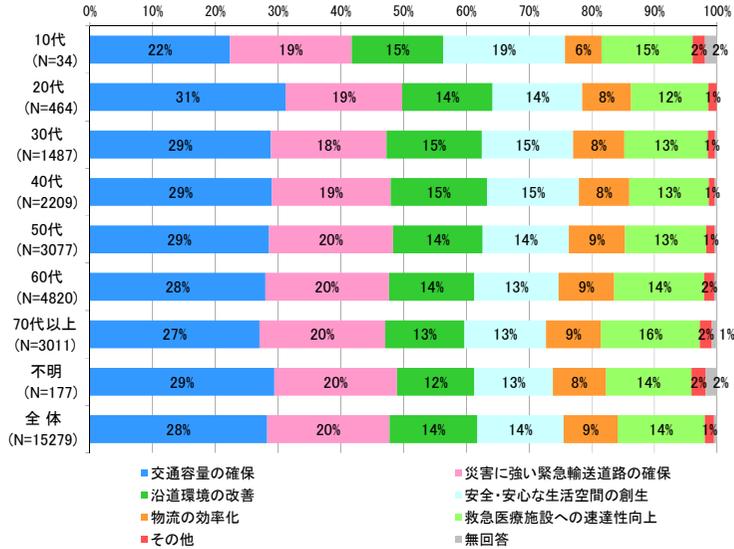


※割合は総回答者数に対する割合。

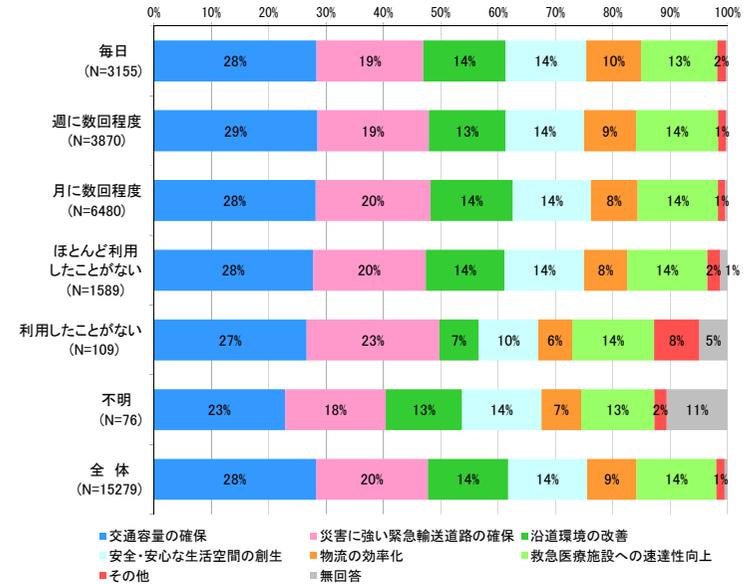
住民等 政策目標(年齢別・利用頻度別)

- ◆年齢別政策目標では、10代で「安全安心な生活空間の確保」の意見が他の世代に比べ高い。「救急医療への速達性向上」との意見は、10代と70代以上で比較的高い。
- ◆利用頻度別政策目標では、傾向に大きな違いは見られない。

【年齢別政策目標】



【利用頻度別政策目標】

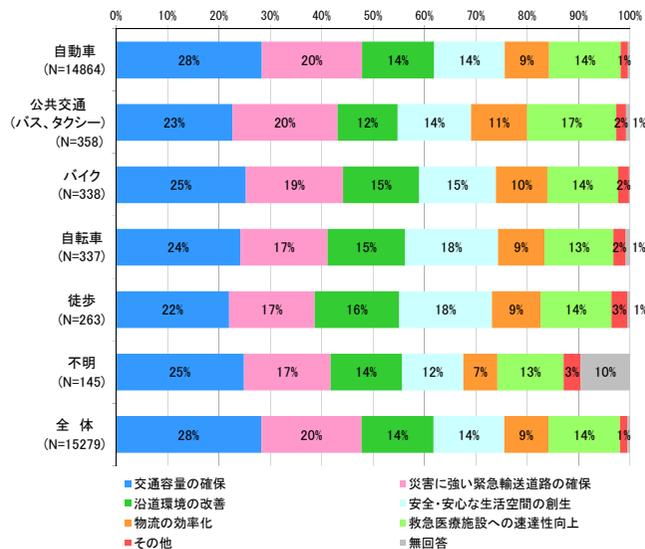


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

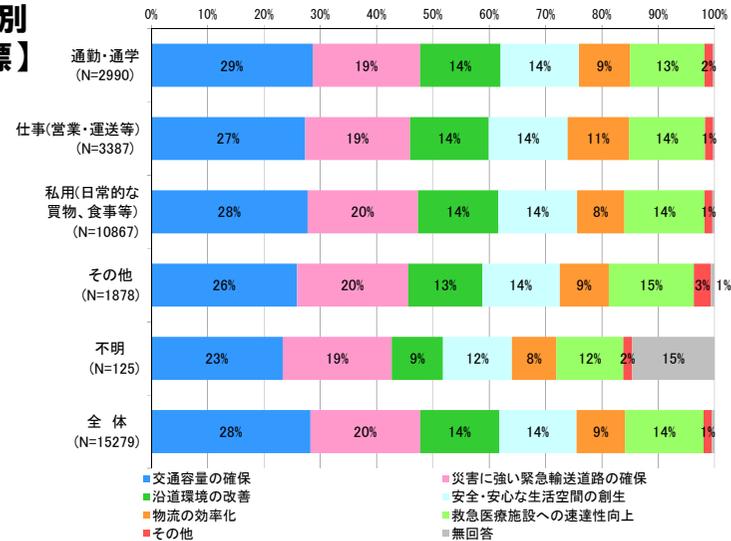
住民等 政策目標(手段別・目的別・課題別)

- ◆ 移動手手段別政策目標では、自動車で「交通容量の確保」が比較的高い。自転車、徒歩で「安全・安心な生活空間の確保」を挙げる割合が比較的高い。
- ◆ 利用目的別政策目標では、傾向の違いは見られない。
- ◆ 課題別政策目標では、課題に対応する政策目標を求める意見が多い。

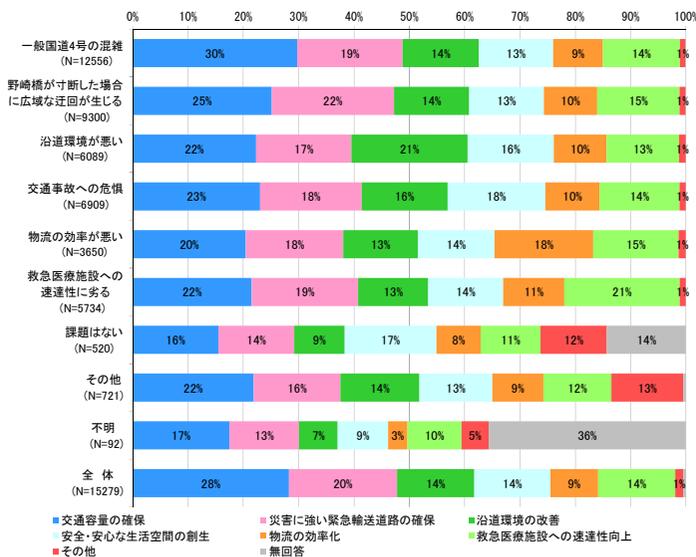
【移動手手段別政策目標】



【利用目的別政策目標】



【課題別政策目標】

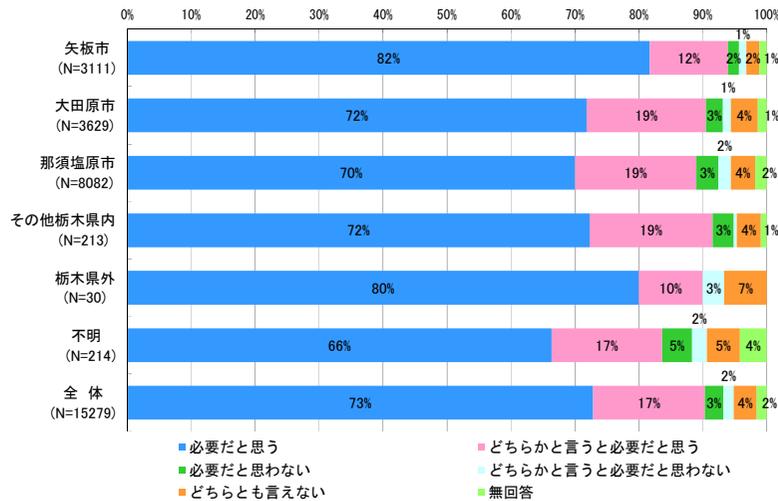


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

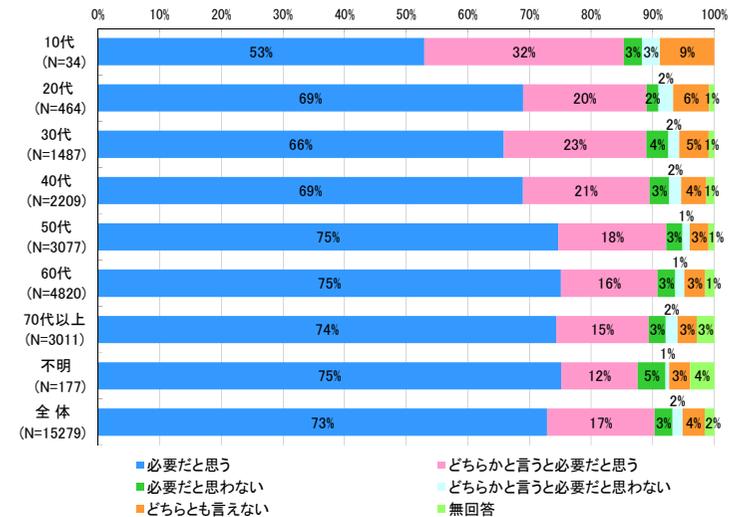
住民等 必要性(地域別・年齢別・利用頻度別)

- ◆地域別必要性では、3市(矢板市・大田原市・那須塩原市)以外の地域でも同様の割合。
- ◆年齢別必要性では、年代が上がるほど「必要だと思う」の回答が多い傾向にある。「どちらかという必要」も含めた割合は、最も少ない10代で85%に留まるが、これは「どちらとも言えない」が多いため、必要だと思わない意見はごく少数。
- ◆利用頻度別必要性では、「ほとんど利用したことがない」「利用したことがない」との回答者は、「どちらとも言えない」の割合が高く、それを除くと大多数は必要と感じている。

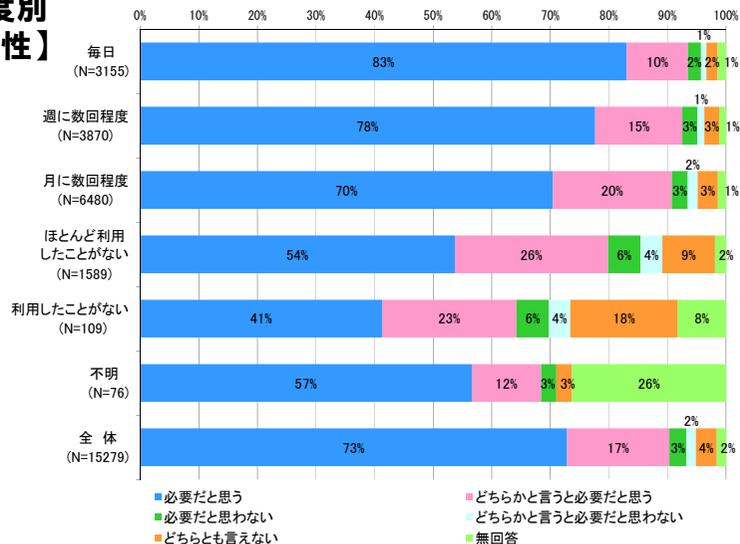
【地域別必要性】



【年齢別必要性】



【利用頻度別必要性】

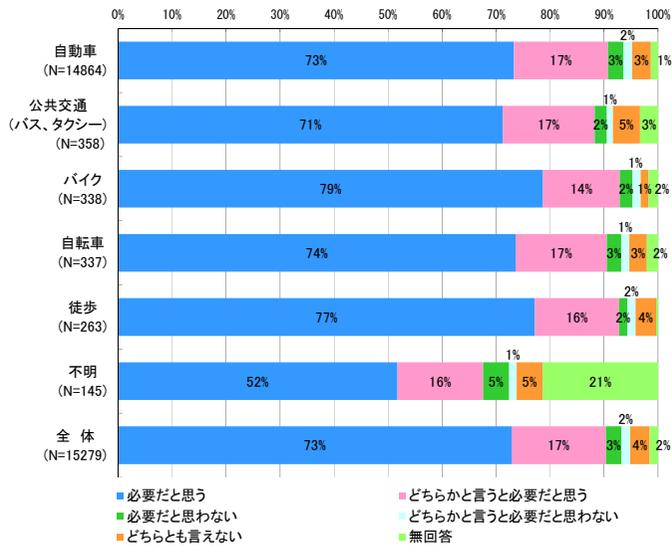


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

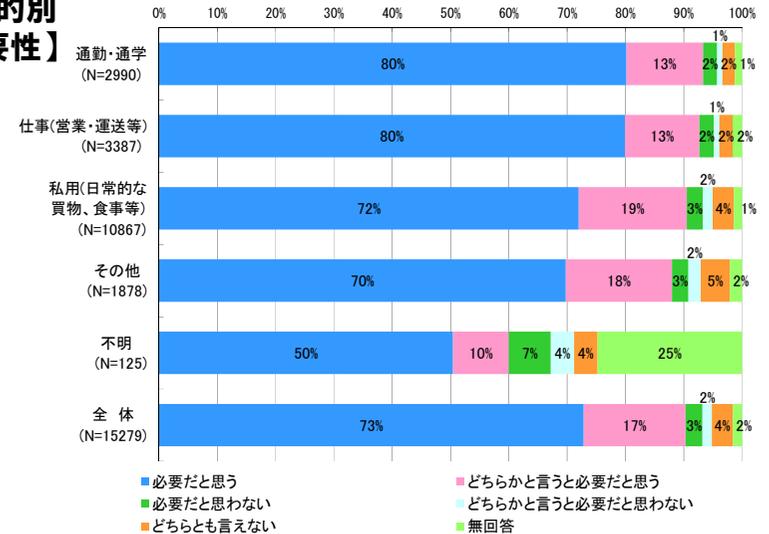
住民等 必要性(手段別・目的別・課題別)

- ◆ 移動手段別必要性では、「不明」を除く)どの手段も必要性を求める意見が9割程度。
- ◆ 利用目的別必要性では、利用頻度が多く、時間制約の大きい「通勤・通学」「仕事」では、必要性が強く感じられている。
- ◆ 課題別必要性では、何らかの課題を認識する回答者の95%以上は道路整備の必要性を感じている。

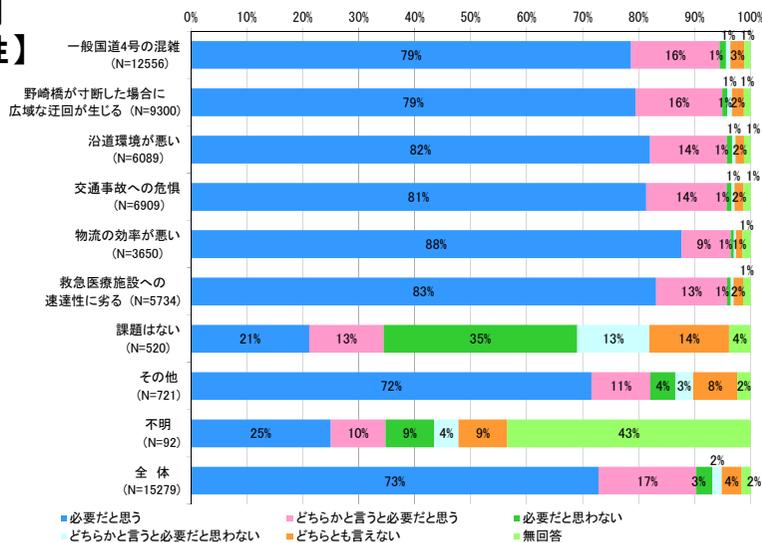
【移動手段別 必要性】



【利用目的別 必要性】



【課題別 必要性】



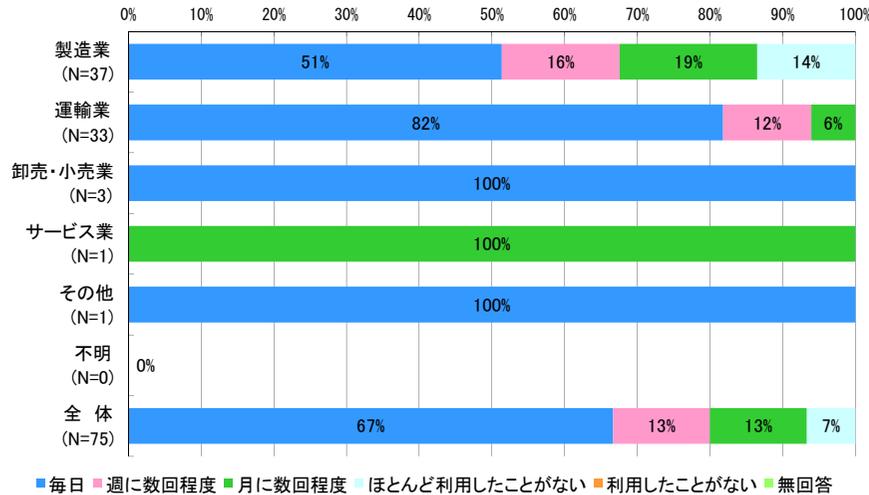
※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

参考2. クロス集計結果【関係団体】

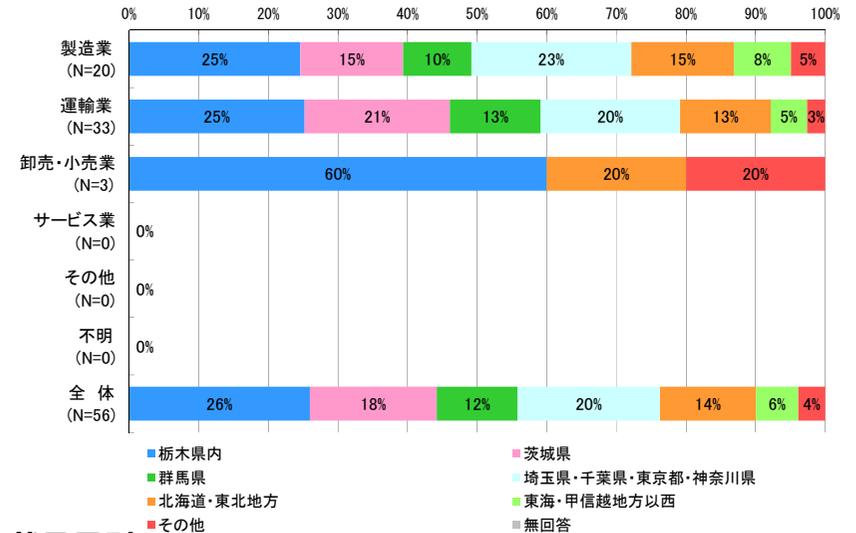
関係団体 利用頻度・出荷先(業態別・積載品目別)

- ◆業態別利用頻度では、製造業は5割が「毎日」利用、運輸業は8割が「毎日」利用する。
- ◆業態別出荷先では、運輸業は製造業に比べ、茨城県を出荷先とする割合が比較的高い。
- ◆積載品目別利用頻度では、積載品目に関わらず、国道4号を週に数回以上使用する。
- ◆積載品目別出荷先では、農水産品、工業製品はその他に比べ、県外出荷の割合が高い。

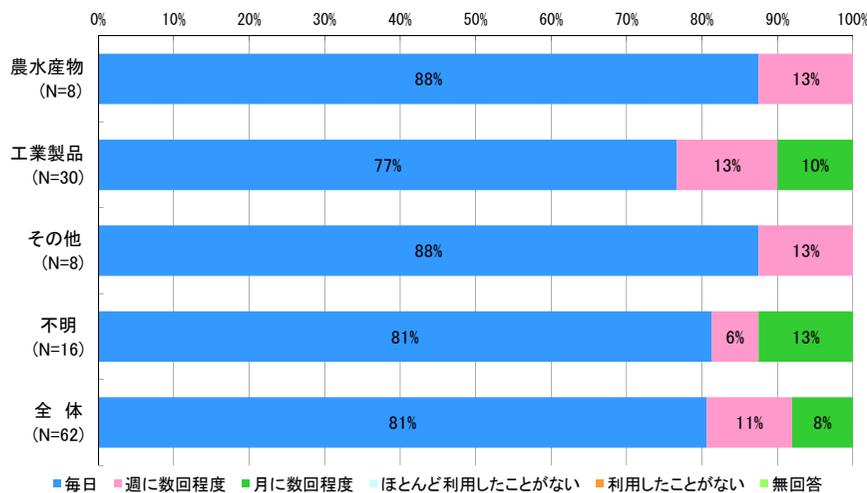
【業態別利用頻度】



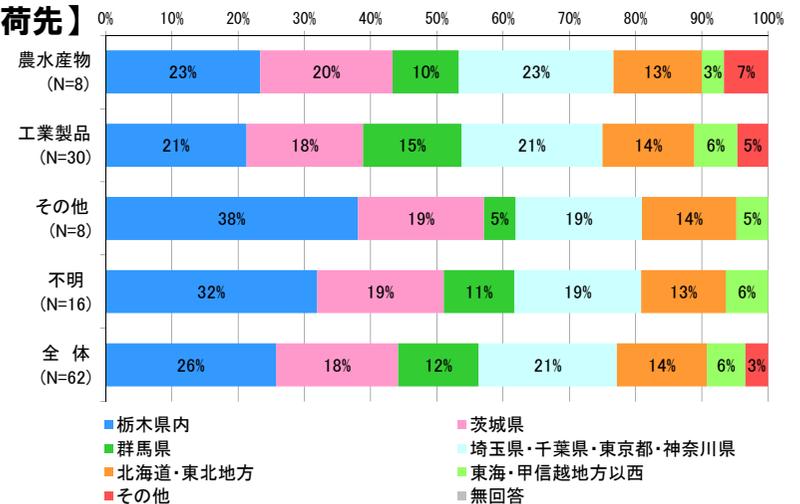
【業態別出荷先】



【積載品目別利用頻度】



【積載品目別 出荷先】

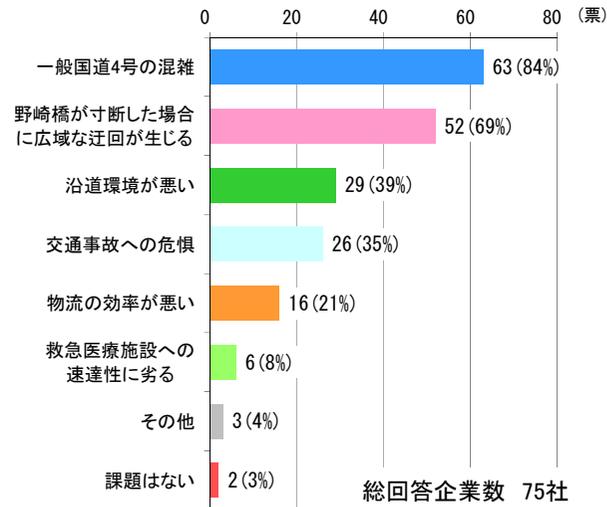


※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。

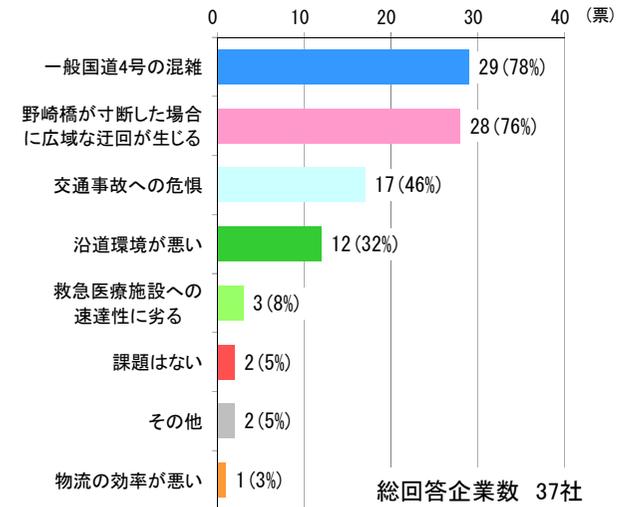
関係団体 課題(業態別)

◆製造業は「交通事故への危惧」、運輸業は「物流の効率が悪い」、卸売・小売業は「一般国道4号の混雑」との課題意見が他の業態と比較して多い。

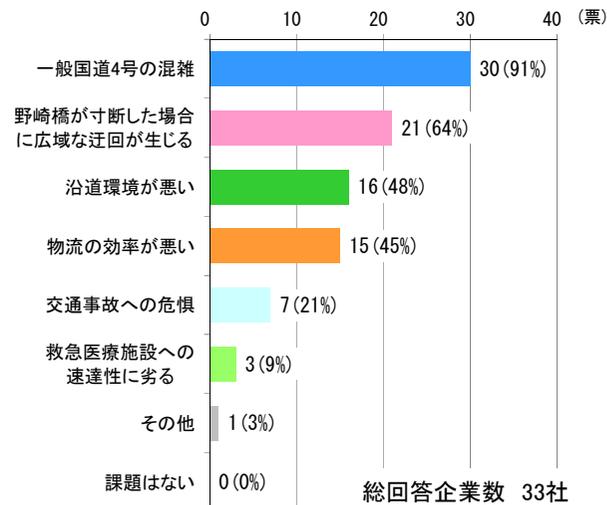
【全体】



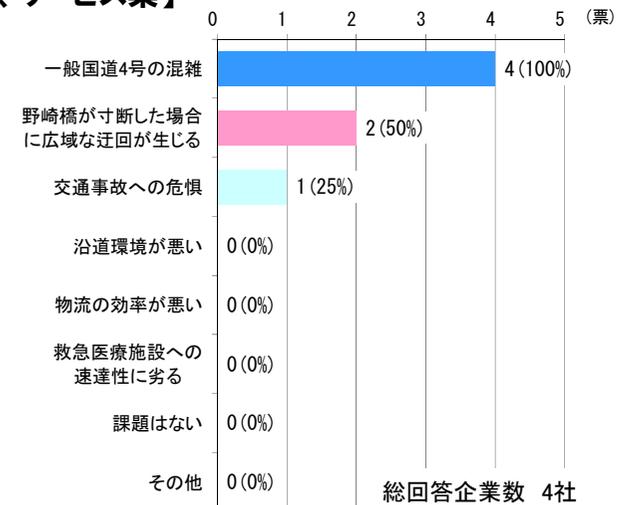
【製造業】



【運輸業】



【卸小売業、サービス業】

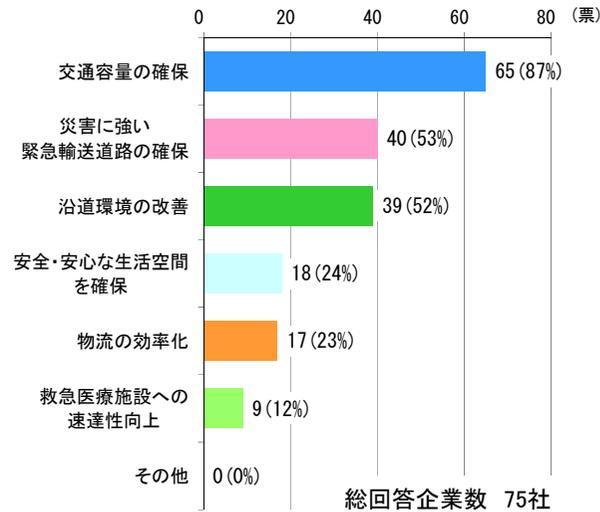


※割合は総回答者数に対する割合。

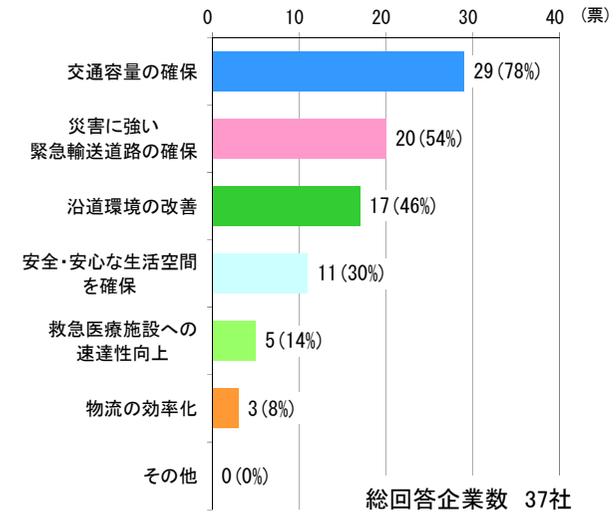
関係団体 政策目標(業態別)

◆製造業は「沿道環境の改善」と「安全・安心な生活空間の創生」、運輸業は「物流の効率化」を求める意見の割合が他の業態と比較して高い。

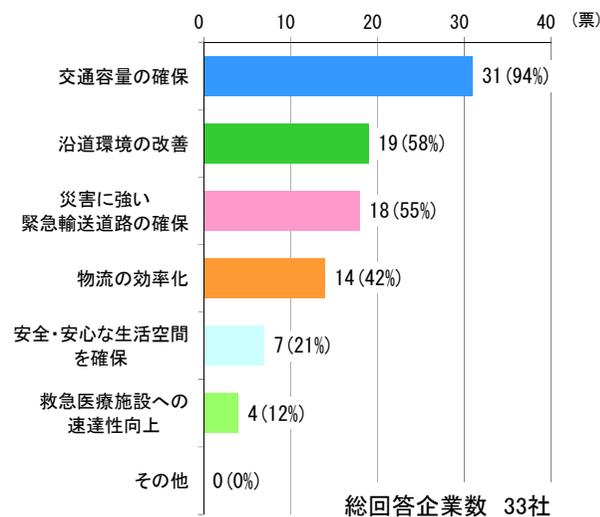
【全体】



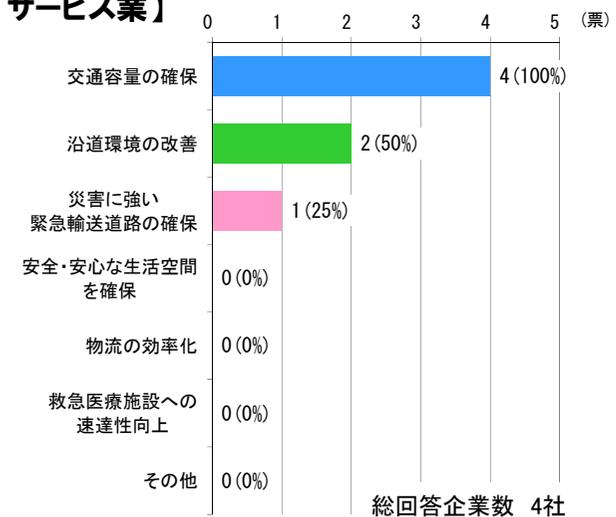
【製造業】



【運輸業】



【卸小売業、サービス業】

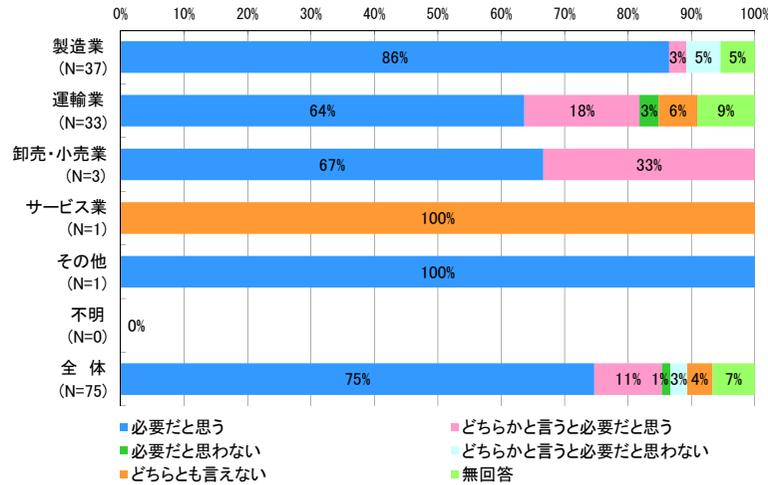


※割合は総回答者数に対する割合。

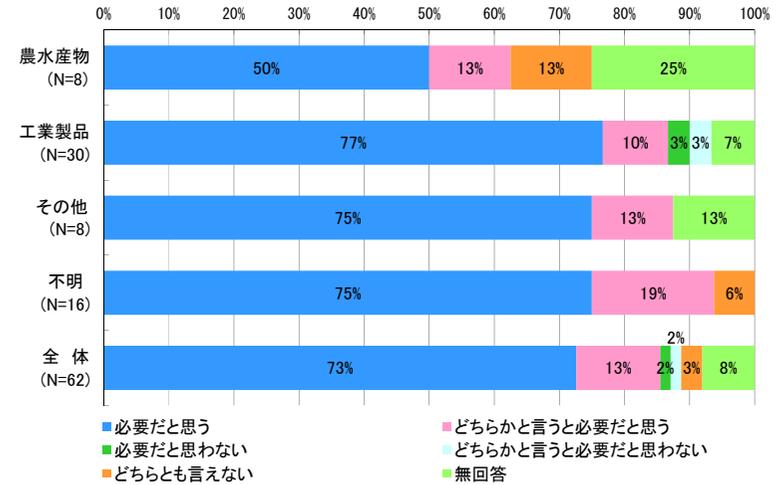
関係団体 必要性(業態別・積載品目別・課題別)

- ◆業態別必要性では、製造業、運輸業のいずれも「必要だと思う」「どちらかと言うと必要だと思う」の合計が8割以上。
- ◆積載品目別必要性では、積載品目に関わらず大多数が道路整備は必要であると回答。
- ◆課題別必要性では、傾向に大きな違いはない。

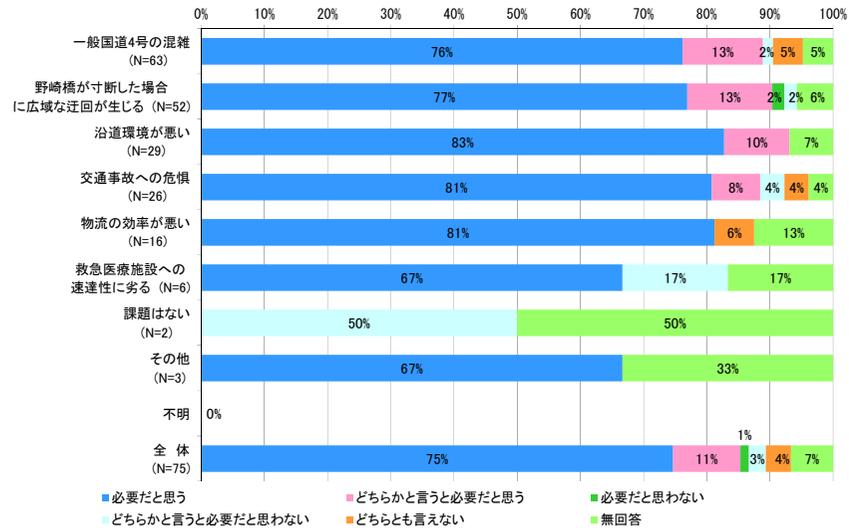
【業態別必要性】



【積載品目別必要性】



【課題別必要性】



※Nは各項目の回答者数。割合は各項目の総回答数に占める割合。